

## 景気動向調査の概要【平成26年7月～9月】

平成26年11月17日

富山商工会議所

### 円安の進行が影響か？ 景気の後退り感強い結果に

#### ～回答企業の約半数が「足踏み状態」と判断～

今回の調査では、景気の状態のほか、急速に進む円安に伴う業績への影響と北陸新幹線開業に向けての取り組みなどについて聞いた。

まず、景気の状態については、回答企業の半数が「足踏み状態」と答え、「緩やかに回復している」との回答が約4割を占めた前回調査（平成26年4～6月）と比較し、景気の後退り感が色濃い結果となった。景気の状態を表す「DI」（景況判断指数）は▲3.7で「悪化」となったが、来期の見通しは▲11.5と7.8ポイント「悪化」を示す結果となった。

急速に進む円安の影響に関して、原材料費や燃料の高騰が企業収益を圧迫していることから、製造業では、積極的に経費削減に取り組んでいるほか、小売業では、商品価格への転嫁が難しいことから、リーズナブルな商品を投入するなどして対応している。

北陸新幹線開業に向けての各企業・団体の取り組みとしては、飲食業界では、県産野菜などを用いた新メニューの開発に取り組む動きが見られたほか、百貨店などでは、店内改装やブランド店の再編などが予定されている。一方で、新幹線開業後、当面の間金沢駅が終着駅となることから、事務所等の金沢への移転などが懸念されるといった意見もあった。

業種別の動向としては、製造業では「一般機械」において世界的に好調な自動車生産に加え産業機械・建設機械分野の需要が回復しており、工作機械やベアリング関係も好調となっている。「電子部品」では自動車関連に加え携帯電話などの情報端末関係が好調となった。一方で「紙加工」「紙流通加工」では、不調の回答が多く依然厳しい状況下にある。

非製造業では「食料品卸売」は、燃料費高騰のあおりを受け相場が変動し、「リース」では産業機械、土木建設機械が前年同期比で増加した。「小売」では、生鮮食料品や生活用品が好調であったものの衣料品や日用雑貨は不調であった。

「旅行関連」では、円安と中国や韓国の政情不安が続いていることが影響し、海外旅行が低調だった。一方で、企業の出張回数も増加傾向にありJR券や国内航空券の販売は好調となった。

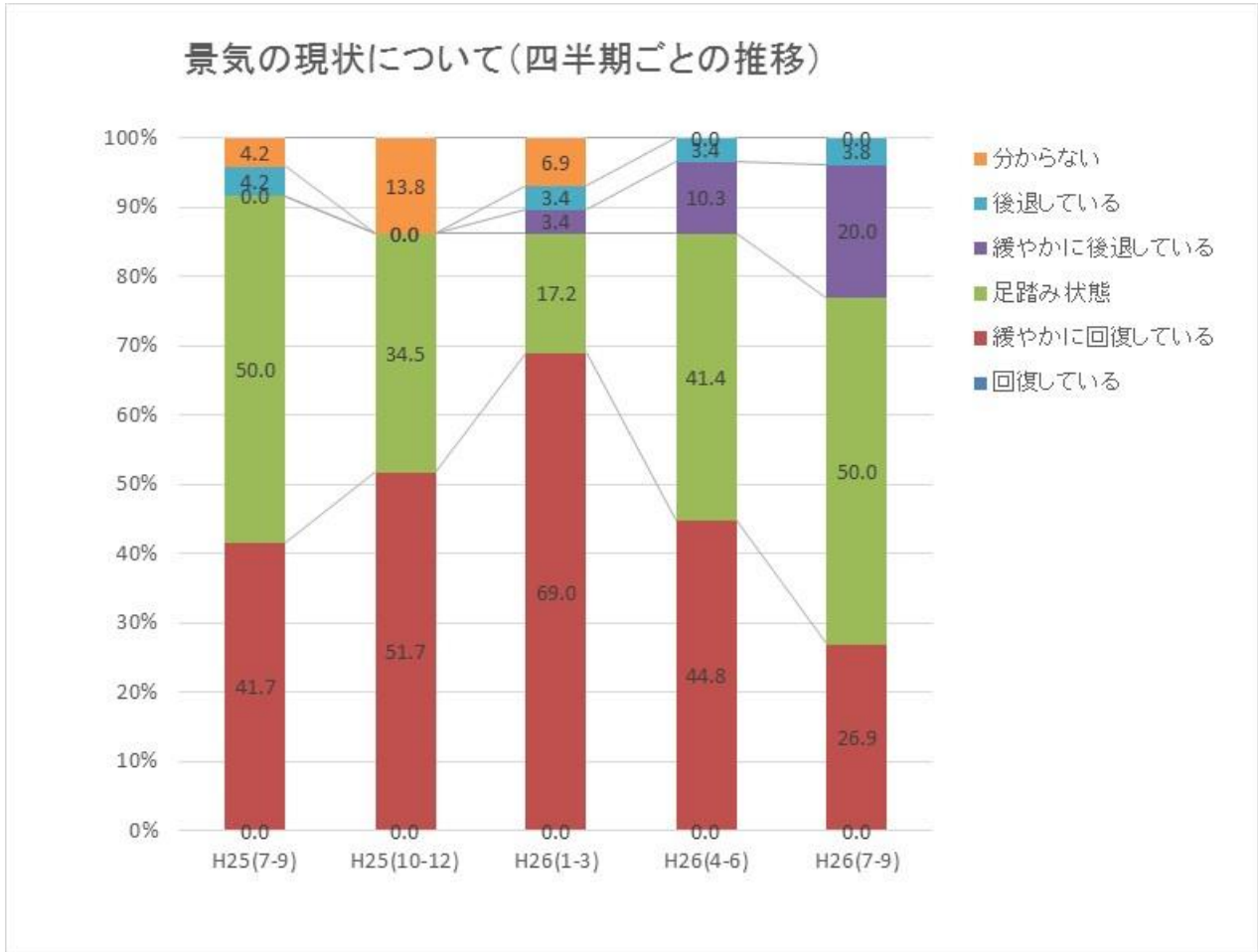
#### <実施要領>

1. 調査実施期間 平成26年10月9日～平成26年10月17日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 30社
3. 調査方法 調査票を郵送し、郵送またはFAXで回収（一部、電話による聞取調査を実施）
4. 有効回答数 27社（回収率90%）

## (1) 今期の状況

今期の状況(%)		25年 7-9月期	25年 10-12月期	26年 1-3月期	26年 4-6月期	26年 7-9月期
①売上高	増加	44.0	56.7	72.4	36.7	37.0
	不変	24.0	13.3	3.4	13.3	22.2
	減少	32.0	30.0	24.1	50.0	40.7
	D I	12.0	26.7	48.3	△ 13.3	△ 3.7
②売上単価	上昇	28.0	13.8	35.7	27.6	30.8
	不変	40.0	55.2	35.7	31.0	53.8
	低下	32.0	31.0	28.6	41.4	15.4
	D I	△ 4.0	△ 17.2	7.1	△ 13.8	15.4
③仕入単価	低下	8.0	0.0	0.0	3.7	7.7
	不変	56.0	58.6	51.9	33.3	53.8
	上昇	36.0	41.4	48.1	63.0	38.5
	D I	△ 28.0	△ 41.4	△ 48.1	△ 59.3	△ 30.8
④採算	好転	24.0	27.6	37.9	17.2	25.9
	不変	32.0	44.8	31.0	41.4	33.3
	悪化	44.0	27.6	31.0	41.4	40.7
	D I	△ 20.0	0.0	6.9	△ 24.1	△ 14.8
⑤資金繰り	好転	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0
	不変	88.0	89.3	85.7	96.4	88.5
	悪化	12.0	3.6	7.1	3.6	11.5
	D I	△ 12.0	3.6	0.0	△ 3.6	△ 11.5
⑥従業員	増加	12.0	17.2	14.3	14.3	11.5
	不変	56.0	58.6	46.4	53.6	53.8
	減少	32.0	24.1	39.3	32.1	34.6
	D I	△ 20.0	△ 6.9	△ 25.0	△ 17.9	△ 23.1

(2) 前期の比較と来期の見通し



今期の業況(%)		25年 7-9月期	25年 10-12月期	26年 1-3月期	26年 4-6月期	26年 7-9月期
前期比	好転	36.0	46.7	41.4	23.3	33.3
	不変	40.0	30.0	44.8	26.7	29.6
	悪化	24.0	23.3	13.8	50.0	37.0
	D I	12.0	23.3	27.6	△ 26.7	△ 3.7
来期の見通し	好転	28.0	46.7	32.1	34.5	15.4
	不変	52.0	40.0	25.0	34.5	57.7
	悪化	20.0	13.3	42.9	31.0	26.9
	D I	8.0	33.3	△ 10.7	3.4	△ 11.5

# 1. 企業からの主なコメントおよび業界の動向

---

## (1) 製造業

### ◆一般機械

世界的に好調な自動車生産と、産業機械・建設機械分野の需要回復を背景に、受注環境は堅調に推移した。輸出向けの工作機械や自動車用トランスミッション部品、ベアリング部品が好調となり、産業用ベアリング部品においては、9月度単月として過去最高となった。一方で、切削工具（ドリル）の圧接及び旋削加工が不調となったほか、IT 関連では、液晶・半導体製造装置向け搬送用ベアリング部品も不調となった。

### ◆電子部品

ガスレンジに用いられる温度センサー（SI センサー）や自動車関連、スマートフォンなどの携帯情報端末関連が好調であったが、液晶テレビや AV 機器、パソコン関連が不調となった。

### ◆輸送機械

取引先において品質改善による再点検に伴い車種モデル変更販売時期が後送りとなり、国内外ともに部品の受注生産の調整が行われ、全体的に減少した。

### ◆プラスチック

ペット用品は好調であったが、OEM 品や介護用品が不調となった。容器関連では、出荷品目に変化はないものの、受注数量が減少した。

### ◆医薬品

ジェネリック医薬品は好調を維持しているが、配置用医薬品は不調が続いている。

### ◆紙・紙加工

医療用医薬品向け印刷包材は好調となったが、包装システム関連が不調となったほか、アルミ関連や建材関連、食品・飲料関連も不調となった。

### ◆紙流通加工

今期は好調を示すものはなく、ほぼすべてにおいて不調となった。

## (2) 非製造業

### ◆食料品卸売

玉葱、長いも、南瓜、キャベツ、レタス、ふじりんご、ハウスみかん、バナナ、キウイフルーツが好調となったが、トマト、ニンジン、葱、ピーマン、西瓜、豊水、いちごが不調となった。

トマト、胡瓜、茄子、ピーマンなどハウス栽培している作物については、重油の高騰が影響し出荷県にも変化がでている。

### ◆リース

産業機械、土木建設機械の2分野において、4～9月の半期ベースで見た場合、前年同期比で増加したが、情報関連機器は、消費税増税前と Windows XP サポート終了による駆け込みの反動が影響し不調となった。

### ◆大型小売店・専門店

百貨店は生鮮食品や化粧品、家庭用品が好調であったが、婦人衣料や紳士衣料が不調となった。

ショッピングセンターでは、鮮魚と精肉、文具や玩具が好調となり、衣料品全般、日用雑貨品は不調であった。

女性服専門店では、長い間流行していた細いパンツに代わりワイドパンツとジャケット、マフラーやストールなどのネックウェア類が好調であったが、高額商品は不調だった。

### ◆旅行

国内団体旅行では九州方面へ大型の社員旅行があり好調だったが、海外旅行については、円安と中国や韓国の政情不安が続いていることが影響し不調となった。JR券、国内航空券については、企業の出張回数の増加が影響し好調であった。

### ◆飲食

まちなかランチパスポートに参加した結果、来客数は増加したものの、客単価が低く抑えられていたことから売上増加につながらなかった。また、宴会や会合などの大人数での予約がお盆を除いて少なかった。

### ◆情報関連

流通業・製造業関連システムの開発が好調となったが、金融業関連システムの開発は不調であった。

### ◆建設工事

<富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数(戸)		前年 同月比(%)
	平成26年	平成25年	
7月	401	137	292.7
8月	219	251	87.3
9月	220	444	49.5

(富山県調べ)

### ◆新車販売

<県内の新規自動車登録台数(軽自動車は除く)>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成26年	平成25年	
7月	2,756	2,835	97.2
8月	1,973	2,044	96.5
9月	3,018	3,252	92.8

(富山県自動車販売店協会調べ)

<軽自動車登録届出数>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成26年	平成25年	
7月	1,988	2,225	89.3
8月	1,289	1,704	75.6
9月	2,211	2,228	99.2

(軽自動車検査協会富山事務所調べ)

## 2. 為替レート円安の影響について

---

9月19日には1ドル109円を記録するなど、急速に円安が進行しており、日本全体では貿易赤字も拡大していることから、県内各業界・団体へのその影響について聞いた。

- ・全体的に原材料費や仕入れ価格、水道光熱費や運送費などの値上げによって、コストが高み収益を圧迫している。
- ・製造業の中には、プロジェクトチームを編成し、経費節減に取り組む事業所も出てきている。事業所によっては、海外から商品を仕入れて国内で販売する比率が高く、販売価格の改定とのタイムラグを避けられず、円安の進展が重石となっている。また、デフレ脱却を目指しているが、値上げに踏み切れない事業所もある。
- ・小売業では、仕入れ価格の上昇が予想されるが、商品の値上げは困難との声も聞かれ、輸入品の高騰により、リーズナブルな商品を投入して対応している。
- ・飲食業界では、消費税率が8%に引き上げられた4月から、閉店する店も見受けられ、業界に対する客離れが進んでいるとみている。
- ・急激な円安は輸入に依存する我が国において、生活必需品や生産材料の高騰につながり、国内経済への影響が非常に懸念される。

## 3. 北陸新幹線開業に向けての取り組みや事業について

---

北陸新幹線の開業が平成27年3月14日に決定しました。県内各地ではカウントダウンボードの設置など、開業ムードが高まりつつありますが、新幹線開業に向けた各企業の取り組みなどについて聞いた。

- ・北陸新幹線の軸受を製造しており、安全走行という面で新幹線を支えている。
- ・首都圏との移動時間の短縮により日帰り出張が可能となるため、経費をカットすることができる。その一方で、本社や支店、営業所のあり方について検討していく必要がある。
- ・県外顧客にとって交通の利便性が良くなることはメリットになると考えている。長期的にはOEM分野において、リスク回避の動向や新たな県外資本の移動が期待される。
- ・ものづくり総合見本市2015への出展を予定している。
- ・県と連携して県産野菜や果実の生産拡大を図り、食べ方や料理の提案を推進する。また、飲食店経営者で県産野菜を使った料理開発に取り組んでいる。
- ・店内改装に合わせブランド店の入れ替えなどを来春に予定している。
- ・学会やスポーツイベントなど、富山県内で行われる全国規模の大会に関する営業活動を強化している。また、国内旅行最大のキャンペーン「日本の旬」の開催（H27年10月～3月）に向けた準備に取り掛かっている。
- ・北陸銀行富山駅前支店の前面の壁にほくほくフィナンシャルグループの共同出資にて、カウントダウンボードを設置した。